



2006年8月25日中央公会堂向かいの「若松の浜」での水辺ナイトイベント

NPO「水都OSAKA 水辺のまち再生プロジェクト」代表理事

かわ むら たけ し
河村 岳志さん



プロフィール

1964年、大阪・堺市生まれ。物心がつくころ枚方市に転居し、淀川や天野川の水辺で遊ぶ日々を過ごした。86年大阪芸術大学デザイン学科卒業(卒業制作展でグランプリ受賞)後、デザイン事務所勤務を経て92年に独立。98年、現在のデザイン事務所を設立。04年に法人化しデザインマネージャーに。NPO「水辺のまち再生プロジェクト」は03年の設立前から参画し、昨年度から代表理事。また成安造形大学非常勤講師、03年以降は大阪御堂筋パレード審査員としても活躍中。

川や水辺を、 人々が集い楽しめる空間に

大阪市は、市域面積の約1割を河川が占めているという。大阪ではその昔から縦横に走る河川と八百八橋と称される橋が、人々の暮らしに賑わいを与え経済を支えてきた。「水都大阪」といわれるゆえんである。とはいえ近年、その河川から賑わいが薄らぎつつあるという指摘もある。そのため01年、政府の都市再生プロジェクト決定を受け、「水の都大阪再生協議会」を設立。官民一体となって水都大阪を再生させる事業を展開中だ。

こうした流れと時期を同じくして、川や水辺を、人々が集い楽しめる空間に再生しようというNPOが大阪で産声を上げ、活動を続けている。「水都OSAKA・水辺のまち再生プロジェクト」がそれ。代表理事が河村岳志さんである。

NPO設立は03年3月。建築家やグラフィックデザイナー、不動産コーディネーター、税理士などが設立メンバーだった。重点目標は「水辺に人を集める魅力を増やすこと」。具体的には、水辺の物件だけをインターネット上で

紹介する「水辺不動産」や、毎月1回中之島公園の東端に集まってお弁当を食べる「水辺ランチ」のほか、イベントの一環として期間限定で「水辺のカフェテラス」(南天満公園仮設栈橋)や「カフェ&バー」(同)を運営。また市内で水辺に親しめるスポットを紹介した「大阪水辺マップ」の制作・販売、水上タクシーの試験運航など活発な活動を続けている。

河村さんは「川は汚い、水辺で遊ぶな」という歴史があり、人も住まいも川に背を向けてきた。でも、水郷・柳川として今や観光名所になっている福岡県柳川市の掘割や、川を埋めて造った高速道路を外して元の川に戻したソウルのチョングチョン川などのように、水辺を再生することでまちが活性化し、観光資源にも市民の憩いの場にもなるんです。

川の水辺で育ち、遊ぶ

小さいころから青春時代までを、川の近くで過ごしており、水辺の原風景が脳裏に焼きついている。そんな河村さんがデザインする水辺と

は江戸時代、三十石船で大阪天満や八軒家が賑わったように、現代の堂島川や横堀川の水辺に近代的なマーケットを作る。1階は水面に面していて、近くには「川の駅」があり、小型船舶の水上タクシーが発着。レンタル自転車もある。デッキには売店。人々はお茶を飲みながら本を読んだり将棋をしたり…。そこには賑わいを取り戻した水辺がある。

「船が留まっていると風景がおしゃれになり、人が集まるので川が活性化します。私たちがやっているのは、こうすれば人が集まるという方法を示して、水辺に視線を当ててもらうきっかけをつくること」だという。

今後の目標を「川を生かした国内外の活動を紹介することや、それらの資料・写真の展覧会開催。その後、出版まで手がけることができれば」と語る河村さん。「毎月第1水曜日に、公開でNPOの定例会議をやっています。興味のある方はぜひ参加してください」と呼びかけている。

(文・脇本勤 / 表紙写真 高島悠介)